

<< 11月14日(土) 9時30分~11時30分開催 >>

国府小学校 ふれあい教室 参加者17名(3年生を中心に1年生~6年生)

前半は防災の紙芝居をして、その後、内容をより理解してもらうために「こんなときは、どうしたらいいのかな?」と題して、クイズ形式で、避難することを学んでももらいました。



※紙芝居は、プロジェクターを使用しました。

使用した紙芝居

「はるかぜちゃんといこう」NPO法人かすみん(春日井市)作成の紙芝居
<http://www.city.kasugai.lg.jp/bosai/bosai/019329.html>



内容:一人でいるときに大きな地震が起こったどうすれば良いのか?

机の下にかくれるところから、家族と約束した避難場所まで

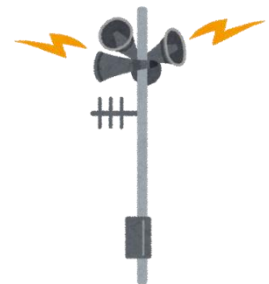
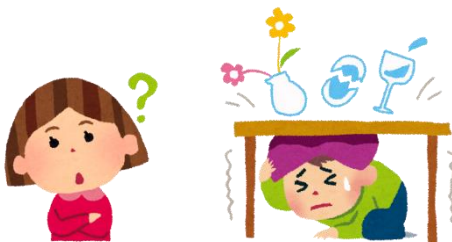
さまざまな困難を乗り越えて、みんなで助け合って学校までたどり着くための物語です。

※紙芝居は、プロジェクターを使用しました。

(クイズの例)

一人(ひとり)でお家(おうち)にいるときに、大きな(おおきな)地震(じしん)がありました。
こんなときは、どうしたらいいのかな?

カバンの中のビスケットは1枚(まい)足(た)りませんでした。
こういうときは、どうしたらいいのかな?



後半のスタートは、各テーブルに非常持ち出し品の袋を渡して実際に開けて何をするものなのか、みんなで話し合ったり、スタッフに聞いてもらったり交流の時間を持ちました。

その後「なにがあったら 助かる(たすかる)かな？」と題して、クイズ形式で非常時持ち出し品について学んでもらいました。

(クイズの例)

夜(よる)、寝(ね)ているときに、大きな(おおきな)地震(じしん)が起(お)きました。まわりは、停電(ていでん)でまっくらです。なにがあったら 助かる(たすかる)かな？

家具(かぐ)が倒れ(たおれ)たり、電気(でんき)が落ち(おち)たりして、外(そと)へ出(で)ることができません。

なにがあったら 助かる(たすかる)かな？

最後は、各自、自宅から持ってきた非常持ち出し品を出してもらってみんなに説明をしてもらいました。



毎日新聞の記者さんに撮影してもらった写真です。

大人が思っているより、しっかりした子もいてサランラップを持ってきた子に「何に使うの？」って聞いたらお皿にひいて食べたら洗わなくても良いとか、缶詰、缶切り、コンビニでもらった割りばしやスプーン、タオルなどをプラスチックのケースにきれいに整頓して入れている子もいました。

びっくりしたというか感心した反面、子どももちゃんと考えているんだと安心しました。2時間という長時間で、後半は席を立って走り回る子や、笛を鳴らしてはしゃぐ子もいて、正直どうなることかと思いましたが、私たちも楽しい時間を過ごすことができました。

出前授業：和泉防災ネットが、国府小で /大阪

毎日新聞 2015年11月15日 地方版

和泉市を中心に防災を啓発するNPO法人「和泉防災ネットワーク」が14日、同市府中町2の市立国府小学校で出前授業をした。1～6年の17人が紙芝居やクイズで非常時の備えを学んだ。

講師役でネットワーク副理事の佐近由佳さん(51)が「夜に地震が起きて真っ暗な時、何があったら助かるかな」。子どもたちは「懐中電灯」と元気よく答えていた。

6年の田中侑那君(11)は「アルミシートが防寒に役立つと初めて知った。災害時に便利なものがいろいろあるんだなと思った」と話した。【椋田佳代】

当日は、毎日新聞さんが取材に来てくれて、翌日の新聞に掲載してもらいました。

11/15 (日曜日) 朝刊